

大型バスの安全対策の現状について

- 大型バスは一旦事故を起こすと被害が大きくなり、社会的な影響が大きいことから、これまでもシートに関する規制強化等様々な安全対策を実施。
- 本年3月の北陸道のバス事故を踏まえ、安全対策を加速させる必要があるが、その検討に資するため、ドライバー異常時の対策の主なものの現状を以下の通り整理。

安全装置 <small>(ドライバー異常時の対策として期待されるもの)</small>	新車対策	使用過程車対策
① 警報装置	<ul style="list-style-type: none"> ・車線逸脱警報、車間距離警報、ドライバーモニタリング警報等が既に実用化され、普及中 	<ul style="list-style-type: none"> ・後付けが可能な左記の装置が既に実用化
② 衝突被害軽減ブレーキ (AEBS)	<ul style="list-style-type: none"> ・全車装備され、普及中 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に後付けは困難であるが一部メーカーで限定的に実施決定
③ その他の装置	<ul style="list-style-type: none"> ・車両安定性制御装置 (EVSC) の装備義務づけが決定済 ・ドライバー異常時対応システムについて、ASV検討会で開発を検討中 	<ul style="list-style-type: none"> ・実用化に向けて開発検討中 (本検討会の下にWGを設置し、開発検討を加速)